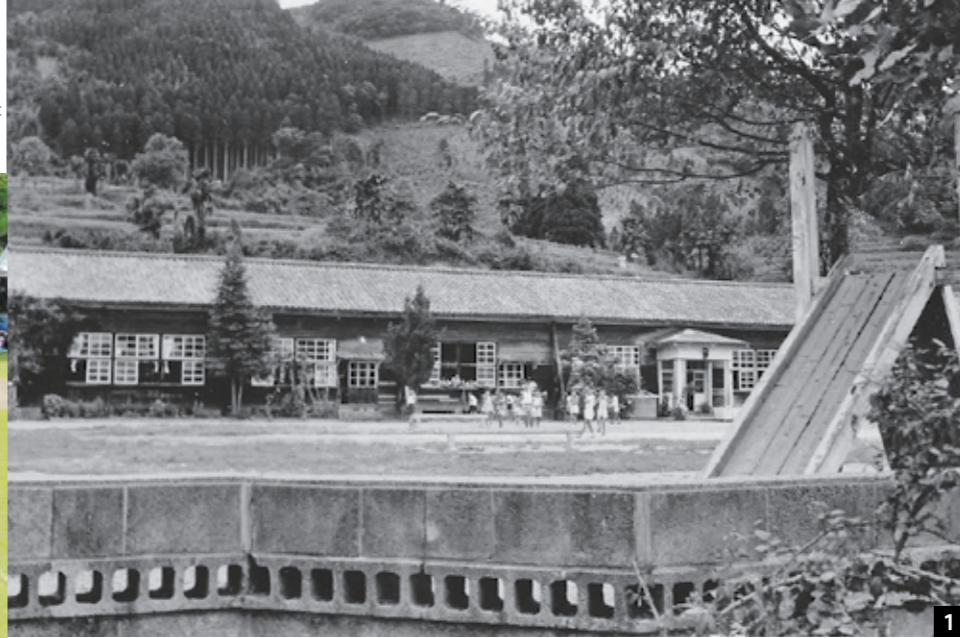


笠祇小学校の沿革

- 明治9年 葛ヶ迫小学校として創立
- 20年 南那珂8番学区葛ヶ迫小学校と称す
- 21年 簡易小学校と称す
- 25年 葛ヶ迫尋常小学校と称す
- 39年 校舎一部改築と校地の拡張
- 大正15年 第三福島小学校と改称、2学級複式となる
- 昭和16年 笠祇国民学校と改称
- 22年 笠祇小学校と改名
- 24年 現在地に校舎移転
- 29年 町村合併により串間市立笠祇小学校となる
- 39年 給食室完成
- 40年 防火用水(兼プール)完成
- 40年 創立90周年式典挙行、校歌制定
- 43年 新校旗制定
- 50年 笠祇小学校創立100周年記念行事
- 58年 校舎改築完成
- 58年 国旗掲揚柱2基設立
- 62年 地域社会教育として「子どもてべす踊り」導入
- 平成元年 給食センター方式へ
- 3年 へき地集会室(体育館)落成式
- 6年 椎茸栽培園設置
- 8年 簡易砂場設置
- 10年 西校門に門柱2本設置ならびに方位柱設置
- 10年 南那珂教育事務所研究協力校として委嘱を受ける
- 12年 学校環境緑化優秀校の表彰を受ける
- 14年 笠祇小ホームページ開設
- 15年 スポーツ少年団(バレーボール)20周年記念祝賀会
- 16年 第55回全国植樹祭「学校緑化団体」表彰(研究発表)
- 17年 創立130周年記念式典挙行・記念碑建立
- 20年 小中高一貫教育開始
- 21年 串間市教育研究論文「学校賞」受賞
- 24年 運動場に水飲み場完成
- 24年 体育館玄関に車椅子用スロープ完成
- 27年 休校が決定



The scene of 1876-2016

- ①昭和38年撮影。当時の木造校舎は昭和24年から昭和58年までの35年間使われました。
- ②昭和58年撮影。現在の校舎は昭和58年に建てられ、現在まで使われてきました。
- ③平成13年撮影。キャンプにも行きました。
- ④プールは昭和40年に完成しました。
- ⑤平成4年撮影。昭和62年に導入された子どもてべす踊り。小・中学校音楽会で発表。
- ⑥平成27年撮影。最後の運動会に卒業生や地区住民が数多く参加しました。
- ⑦昭和57年撮影。旧校舎での最後の運動会。
- ⑧昭和50年撮影。運動会には保護者や地区住民も参加し盛り上がりします。
- ⑨平成14年撮影。笠祇小恒例の田植え。稲刈りをして収穫祭も行います。
- ⑩平成16年撮影。毎年恒例の餅つき。
- ⑪昭和60年撮影。冬のお楽しみ、収穫祭での一枚です。
- ⑫昭和50年撮影。昭和39年に給食室が完成し給食が始まりました。



いつかまた、こうで。

多くの児童がかけがえのない時間を過ごした学び舎であり、地域の集いの場でもあった笠祇小学校。平成28年3月31日、140年にわたる長い歴史に幕を下ろします。

地域と共に歩んだ歴史に幕

「笠祇」「古竹」「奴久見」の3区の子どもたちが通う笠祇小学校。明治9年4月に葛ヶ迫小学校として創立されて以来、その歴史は、実に140年にもなります。今年3月、長年にわたり地域に愛されながら共に歩み、育まれてきた学校の歴史にいったん幕が下ろされます。

多いときには、100人を超える児童数が在籍したこともありましたが、昭和30年代半ばからは、年々減少の一途をたどっています。今年度の児童数は7人で、平成28年度には4人となる見込みです。

そういった状況の中で保護者たちが望んだのは「休校」でした。これからの社会の中で生きていくためには、子どもたちには日常的に集団の中で、学習したり学んだりして社会性を身に付けることや友達同士で励ましあい競争しながら向上していくことが重要ではないかという想い。笠祇、古竹、奴久見自治会や地区住民もこうした現状を踏まえ、休校という苦渋の決断をしました。子どもたちのためにと作られた学校は、140年という長い年月を経て、子どものことを考えればこそ、その役目を終えようとしています。

Interview

子どもたちのために



笠祇小学校PTA会長
かとうまさひこ
加藤 政彦さん

笠祇小学校は、2年間入学者がおらず、3月に6年生3人が卒業すると4人になってしまいます。そうした現状も踏まえながら、本格的に昨年からは休校に向けて話し合いを行ってきました。地域に密接した小学校なので、地域の方々にも相談しながら今回の決断に至りました。

休校は、子どもたちのことを思えばこそその決断でした。「もつとどうにかならんのか」という意見もありましたが、遅かれ早かれ、あと3年すれば小学校に通う児童はいなくなります。来年には中学校が再編統合するし、子どもたちのことを考えると今年休校にすることが一番良い決断だったと思います。

これまでは小学校があつて地域がありました。これから休校する小学校の分まで地域のために尽力していきたいです。子どもたちには新しい環境の中で健やかな成長を遂げてほしいですね。